

発達障害児に作業療法

遊びや効果的な学習方法をアドバイスする。県備中県民局との協働事業として展開。倉敷、総社、高梁、笠岡市など同局管内で試行して効果を確認し、普及を目指す。(大石哲也)

県学童保育連絡協議会は、学童保育現場の発達障害児支援策として、作業療法の要素を取り入れる試みを始めた。専門チームを放課後児童クラブに派遣し、各種能力の回復につながる

県学童保育連絡協



当面の事業計画では、チームを組織。指導を希望するクラブを募って夏休み期間中に巡回し、保

支援事業の在り方について意見を出し合う学童保育の関係者ら5日、倉敷市・玉島市民交流センター

備中地域で遊びや学習法助言

育スタッフに発達障害のある子どもの個々のケースに合った接し方を助言する。

9月にはクラブのスタッフを対象に、作業療法士による連続講座を企画。遊びを中心としたさまざまな作業活動を通して運動や学習、コミュニケーションなどの能力の回復・向上を図る作業療法の有効性について解説する。

併せて、独自にクラブの訪問指導を行っている作業療法士森川芳彦さん(44)＝倉敷市松島＝の取り組みもサポートし、連携していく。玉島市民交流センター(同市玉島阿賀崎)で5日、事業のオープンイベントがある子どもたちを支える、備中地域の放課後児童クラブ関係者や保護者、作業療法士ら約60人が参加。子どもへいきたい」と話している支援活動の方向性になる。

ついで意見を出し合った。

首都大学東京大学院の小井隆司教授(作業生活支援学)が昨秋、同協議会の協力で行ったアンケート調査によると、県内の放課後児童クラブで発達障害のある子どもが在籍しているのは、回答のあった74施設中66施設。総児童数3423人のうち222人だった。

献体128人に黙とう

岡山大学 50回目の総会



岡山大学医学部、歯学部生が解剖実習を行うための献体の登録者でつくる「ともしび会」の50回目の総会が11日、岡山市北区鹿田町、同大鹿田キャンパスで開かれた。

同会は1967年6月11日に創設。3月末時点の会員数は1742人で、これまでに2758人が献体している。

総会には県内外の会

6/14火から発売

みこ姿を染

ティア「ゆいの会」は、11日、JR岡山駅で戦修復に向けた初の街頭前に患者向けに建てた募金と署名集めを行った。

た。十坪住宅は国の誤った隔離政策の下、国民の寄付で愛生園内に約

が参加。厚生労働大臣宛てに国の責任で修復・保存を求める署名の用紙と募金箱を持っては、補修には1棟数百

画。会長の近藤剛弁護士は「建設当時の寄付により、結果的に市民が隔離政策に加担してしまった教訓を知って

もつとにも、保存